

2日目オープニング

大まかな流れ

10月～11月 2年生からメンバー募集
 12月～1月 1年生からメンバー募集
 ～2月 2年生を中心に構想を練る
 春休み 構造物制作、映像制作
 文化祭1日目午後 舞台上でリハーサル、最終調整
 文化祭2日目 本番、片付け



そもそも2日目オープニングって？

大きな構造物(2022年は聖火台、2021年は電車)と映像を組み合わせて一つの作品に仕立てる、一大プロジェクトです。役者のセリフが無いのが特徴で、構造物と映像と音響の組み合わせで成り立っています。

メンバーには色々な人が集まってきます。

- リーダーシップがある人
- 映像制作が得意な人
- 工作が好きな人

のように、挙げればキリがありません。

(注) 単に「オープニング」と言うと「1日目オープニング」と「2日目オープニング」の2つを指してしまうので、使い分けが必要です。

(左上)アクリエでのリハーサルの様子。多くの人が携わっているのが分かります。

(右上)聖火台と校章ロゴのアップ。

(右下)本番直前の舞台。独特な緊張感が漂っていました。

(写真は全て筆者撮影)



文化祭自体のテーマ「westart」をベースに、私達が考えた「聖火リレー×ドラゴンクエスト」のコンセプトで作られました。

勇者が仲間を引き連れ、魔王の住むアクリエひめじへ。様々な困難を乗り越え、聖火を繋げることはできるのか。全貌は是非DVDでどうぞ。

第75回文化祭は初のアクリエひめじ開催でした。そのため劇団や文化部同様、文化センター時代の記録しか無い中での制作でした。様々な困難を乗り越えて、2日目オープニングスタッフ一同「素晴らしい作品を作りたい」との思いで取り組みました。

2日目オープニングは観客の皆さんがいてこそこの物です。私達と仕事をするのもよし、観客席から感動を味わうのもよし。どう楽しむかはあなた次第、そこが一番の魅力ではないでしょうか。



学年劇

About ー学年劇とは

姫路西高校の文化祭では、新3年生が2つの劇団に分かれてオリジナルの演劇を披露するのが伝統になっています。学年劇はテーマ決定から細部の演出に至るまで生徒主体で進められる、文化祭の一大プロジェクトです。ここでは、第75回文化祭で結成された2つの劇団をご紹介します。

劇団『オッド』旧2年1組・3組・5組 演目『奇しき祭りの夜に』

舞台はある夏祭り。高校生の里奈は演劇部のみんなとお祭りの舞台上で日本舞踊を披露することになる。そんな時里奈はお面をつけた少年を発見する。少年の後を追う里奈は違う世界に迷い込んでしまうが…果たして里奈の行方は…？



奇しき祭りの夜に

第97版 (2017.10)

劇団「オッド」

真葛高等学校



シナリオの抜粋
(オッド)

劇団『サネカズラ』旧2年2組・4組・6組・7組 演目『落花流水』

真葛高校・演劇部では今日も稽古が行われている。演目は『源氏物語』だ。部活に熱心に取り組む心から芽生えてくるのは小さな恋心。交差する恋への葛藤。そこに演劇の成功に関わる問題が発生してしまい……!?! 演劇部たちの恋の行方はどうなるのか。これを読んだあなたはもう、真葛高校の生徒の一員です。

Schedule ー第75回文化祭 学年劇ができるまで

2021年

11月下旬 役職決定 団長をはじめ、劇団の中心となるメンバーをクラスで選出します。役職については下に詳しく記載しています。

12月上旬 シナリオ会開始 団長・副団長・シナリオライターで構成される「シナリオ会」が始まります。時間をかけ、劇のテーマや方向性を話し合います。ここで決まった内容をもとに、冬休みにシナリオライターがシナリオを書き、それを踏まえて改訂が加えられていきます。シナリオの修正はなんと本番直前まで続きます。

2022年

1月下旬 キャストオーディション キャスト（演者）をオーディションで決定します。シナリオ会のメンバーをはじめとする審査員が定めた基準をもとに、幅広い観点から審査します。

3月上旬 企画部活動開始 大道具・音響・照明は会場スタッフの方との打ち合わせの都合上、早い段階から書類作成などの準備を行います。これら以外の担当も、製作の計画を立てるなど、春休みの作業に向けて準備を整えていきます。



シナリオ会（サネカズラ）

3月中旬 キャスト練習開始 演技の練習が始まります。まずはゲームなどを通じて信頼関係を深め、それからセリフの練習、演技の細かな調整と順を追って進められます。プログラムを考え、練習をまとめるのもシナリオ会のメンバーをはじめとする生徒です。なお、外部の先生にお越しいただいてアドバイスをいただく機会が計5回あります。プロ的を射たご指摘によってシナリオが大きく変わることも少なくありません。



キャスト練習 (オッド)

春休み 準備本格開始 制作部も含め、すべての部門で準備が始まります。部活動をおろそかにしないため、準備や練習は原則として午前中に限られます。本番が日に日に迫る中、人材や知識をフル活用して全力で取り組みます。また、春休み中には会場であるアクリエひめじのスタッフの方との打ち合わせが2回あります。スタッフの方に演出の希望を伝え、確認や修正をしたり、助言をいただいたりします。

4月14日(木) 会場仕込み 学校では文化祭1日目が行われている中、劇団メンバーはアクリエひめじ大ホールで大道具や音響・照明の調整、キャストの位置調整などを行います。劇団の持ち時間は1時間しかないため、団長の指揮のもとで手際よく作業が進められます。

4月15日(金) 本番 アクリエひめじで行われる文化祭2日目こそが、劇団にとっての本番です。楽屋で衣装の準備やメイクを行い、上演開始1時間前からはリハーサル室で演技の最終確認をします。直前のプログラムが終了したら、幕間仕事人が場をつないでくれている間に素早く舞台をセッティングします。そして、緞帳が上がった瞬間、ついに劇団メンバーが創る最初で最後の舞台が文字通り幕を開けます。キャストの入魂の演技と、それを舞台袖で見守る団長からシナリオライター、道具類の準備などを担う企画部や制作部の緊張した面持ちは、何か月にもわたった準備や練習があらわれたものといえるでしょう。これを読んでいる在校生、もしくは未来の西高生のみなさんには、ぜひこの空気を味わってほしいと思います。

4月15日(金) 本番 アクリエひめじで行われる文化祭2日目こそが、劇団にとっての本番です。楽屋で衣装の準備やメイクを行い、上演開始1時間前からはリハーサル室で演技の最終確認をします。直前のプログラムが終了したら、幕間仕事人が場をつないでくれている間に素早く舞台をセッティングします。

そして、緞帳が上がった瞬間、ついに劇団メンバーが創る最初で最後の舞台が文字通り幕を開けます。キャストの入魂の演技と、それを舞台袖で見守る団長からシナリオライター、道具類の準備などを担う企画部や制作部の緊張した面持ちは、何か月にもわたった準備や練習があらわれたものといえるでしょう。これを読んでいる在校生、もしくは未来の西高生のみなさんには、ぜひこの空気を味わってほしいと思います。



舞台での演技 (オッド)



舞台袖で見守る企画部・制作部 (サネカズラ)

上演中は、舞台袖の団長、客席後方の音響担当、調整室の照明担当が連絡を取り合い、それぞれ機器の操作や「Q出し」と呼ばれるタイミング指示を行います。40分間のストーリーが終了すれば、劇団メンバーが順番に舞台に登場し、最後に客席に一礼します。緞帳が再び下りると、舞台裏は客席とはまた違った感動に包まれます。

上演終了後、大道具は会場で解体し、備品は学校へ運搬します。こうして劇団の活動は終わりを迎えますが、劇団での出会いを機に仲良くなる生徒も多くいます。



上演後に頭を下げるメンバー (サネカズラ)

Staff —学年劇に携わる人たち

団長（1名） 劇団の責任者です。キャスト練習を進めたり、企画部と連携して準備の計画を立てたりと、劇団全体を見渡し、メンバーを引っ張る立場です。リーダーシップや広い視野が求められます。

副団長（2または3名） 団長とともに劇団運営の中心となります。それぞれが企画部を分担して受け持つこともあります。

シナリオライター（1から3名程度） 劇の出来栄を決めるともいわれるシナリオを制作します。書いて終わりというわけではなく、本番直前までメンバーと話し合って改訂を続け、演出にも関わる重要な役職です。

キャスト（15名程度） 舞台上で演じる人をいいます。セリフを覚えるという難しさもありますが、キャラクターになりきるために大きな努力を重ねます。

企画部（21または28名） 各クラスから7名を選出し、大道具・小道具・衣装・化粧・音響・照明・会計の7種類に分かれます。予算や資材、時間が限られる中、いかに完成度の高いものを創るか試行錯誤します。春休みから本番まで、役職によっては本番終了後も仕事があり、決して楽ではありませんが、その分やりがいも大きなものです。

制作部（多数） 大道具・小道具・衣装の3種類があり、企画部の指揮のもとで実際の作業を行います。上記の役職に所属しない生徒は制作部になります。また、本番で舞台の転換作業にあたる黒子なども制作部の中から選ばれます。



大道具の製作（オッド）



小道具の製作（オッド）



制作部のミーティング（サネカズラ）



リハーサルで調整をする音響担当（サネカズラ）

人数は目安であり、年度によって多少異なります。

なお、生徒会は、劇団と学校やアクリエひめじとの間に立って調整を行うほか、資料作成など事務的なサポートを担います。

また、各劇団には顧問として先生がついておられ、劇団運営についてのアドバイスをくださいます。

最後に……

ここまで読んでいただきありがとうございました！

「westart」というテーマのもと始まった文化祭。このテーマには、表紙に書いた通り、文化祭で西高の芸術をつくる。新たなスタートを切るといった意味が込められています。在校生の皆さんには新しい風を感じていただける文化祭になったと思います。

1日目に行われたスピーチコンテスト・学年展示・文化部展示・ミニフェスティバル。そして、文化祭と同じ westart をテーマに掲げたオープニングから始まった2日目。文化部のステージ、学年劇。どれも本当に素敵で、一つ一つのプログラムが無事終わっていくのが、ほっとするのと同時に、少し寂しくも感じました。

この素晴らしい文化祭ができたのは、まぎれもなく75回生、76回生の皆さんが全力で文化祭準備に励んでこられたおかげです。本当にお疲れさまでした。

これを読んでいる方の中で西高に入学したいという方もいらっしゃるかと思います。どうか、西高の文化祭をこれからもどんどん素晴らしいものに、常に新しい風が吹く素敵なものにしてください。

最後になりましたが、このような時期に盛大な文化祭を開いていただき、また、成功に向けて力を貸してくださった先生方、長い時間打ち合わせを親身にして下さって、文化祭がより良いものになるように裏から尽力して下さったアクリエひめじスタッフの方々に多大なる感謝の気持ちを述べて、最後の言葉とさせていただきます。
(150代 文化委員長)

制作者紹介 (150代 生徒会執行部)

表紙・あとがき	濱本真衣 (文化委員長)
文化祭の概要	
プログラム内容	
準備について	
スピーチコンテスト	藤東拓志 (スピーチコンテスト担当)
文化部展示・階段アート	宮脇大和 (新企画担当)
学年展示	中塚悠 (学年展示担当)
ミニフェスティバル	高橋優太郎・平野琴音 (ミニフェスティバル担当)
生徒会の働き	和田智暉 (スタンプラリー・エンディング担当)
オープニングプロジェクト	安田晃志 (オープニングプロジェクト担当)
学年劇	上田蒼大郎 (学年劇担当)